

実務実習事前学習に対する実務実習受入側の意識調査と解析

○鈴木 慎一郎<sup>1</sup>, 日高 由加里<sup>1</sup>, 濃沼 政美<sup>1</sup>, 中村 均<sup>1</sup>(<sup>1</sup>日本大薬)

【目的】病院・薬局実務実習指導者の事前学習に対する意識や要望等を調査・解析し、その結果を事前学習に反映させ、より実践的な事前学習教育システムを構築する。

【方法】平成 20 年に本学の実務実習生を受入れた施設(病院 45、薬局 179)の実習指導者を対象に、アンケート調査を行った。調査項目は、回答者属性(勤務施設、指導年数、指導担当業務、役職等)、事前学習に対する期待の有無及び現時点の事前学習に対する印象等とした。これらの結果から、意識と回答者属性との因果関係を明らかにするために、多変量解析及びテキストマイニングを行った。

【結果】各施設からのアンケートの回収率は 55.9%(病院 62.2%、薬局 54.2%)であった。回答者における実習指導年数は  $3.6 \pm 4.9$  年(平均  $\pm$  SD)であり、管理職 32.9%、指導職 19.0%、一般職 48.1%であった。事前学習への期待に対する回答は、期待を持てる 50.2%、期待を持ってない 6.3%、どちらでもない 43.5%であった。期待の有無と勤務施設の関係をクロス集計したところ、薬局勤務者は病院勤務者に比べ、期待を持っていることが確認された。更に、期待の有無を目的変数に、回答者属性との関係をロジスティック回帰分析で解析した結果、薬局勤務で指導年数が短く、役職が上位であるほど期待を持っている傾向が認められた。また、事前学習の印象に対する対応分析の結果、病院勤務の管理職者と薬局勤務の管理職者は類似した意識構造を持つことが認められた。

【考察】本研究により、事前学習に対する指導者の意識に影響を及ぼす要因や意識構造を確認できた。本結果を事前学習に反映させることにより、実務実習へ円滑に移行できる実践的な事前学習教育システムを確立することができる。